

竹山地区

竹山地区別計画推進策定委員会

地域 竹山1～4丁目

緑区の南側に位置し、地区の南側は保土ヶ谷区に隣接しています。

昭和40年代に開発された竹山団地が中心にある丘陵地の住宅街です。この地区は、竹山中公園、竹山二丁目公園、竹山南公園等をはじめ、緑豊かな街並みが続きます。

緑区の中では最も高齢化が進んでおり、年少人口比率も最も低い地区となっています。

<主な関連施設>

最寄駅：鴨居駅（JR横浜線）

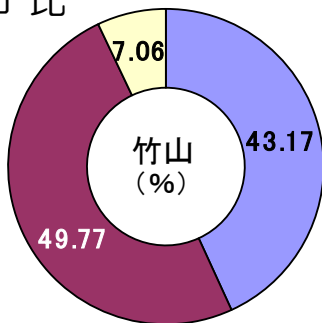
震災時避難場所（地域防災拠点）：竹山小学校

地域ケアプラザ等：横浜市鴨居地域ケアプラザ

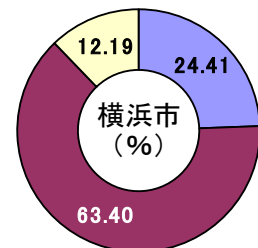
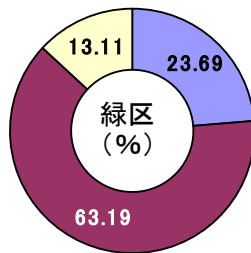
<年齢区分別人口>

令和元年(2019年)9月末

人口比



■ 高齢化率 (65歳以上) ■ 生産年齢人口比率 (15~64歳) □ 年少人口比率 (0~14歳)



75歳～	1,508人
65～74歳	1,433人
15～64歳	3,391人
6～14歳	318人
0～5歳	163人
合計	6,813人

75歳～	22,028人
65～74歳	20,929人
15～64歳	114,577人
6～14歳	14,867人
0～5歳	8,908人
合計	181,309人

75歳～	472,212人
65～74歳	443,935人
15～64歳	2,379,379人
6～14歳	283,586人
0～5歳	173,729人
合計	3,752,841人

地区別計画推進策定委員会の開催状況

第1回

令和元年8月27日

18:30～20:00

竹山ホール

- ・地区別計画について
- ・活動での悩みや課題を共有しよう（グループワーク）

通信No.17 発行

第2回

令和2年2月25日

18:00～19:30

竹山ホール

- ・第4期地区別計画の策定に向けて
- ・これからの5年間で、竹山地区でできたらいいこと（グループワーク）

通信No.18 発行

緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」令和元年度地区別計画推進状況



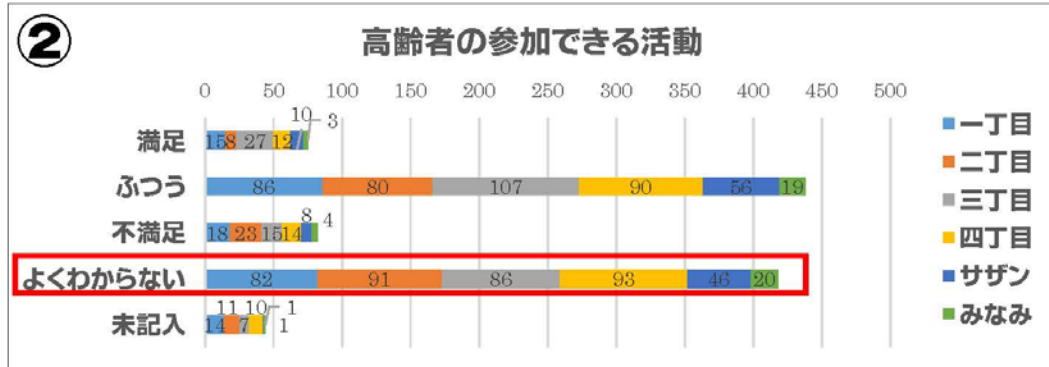
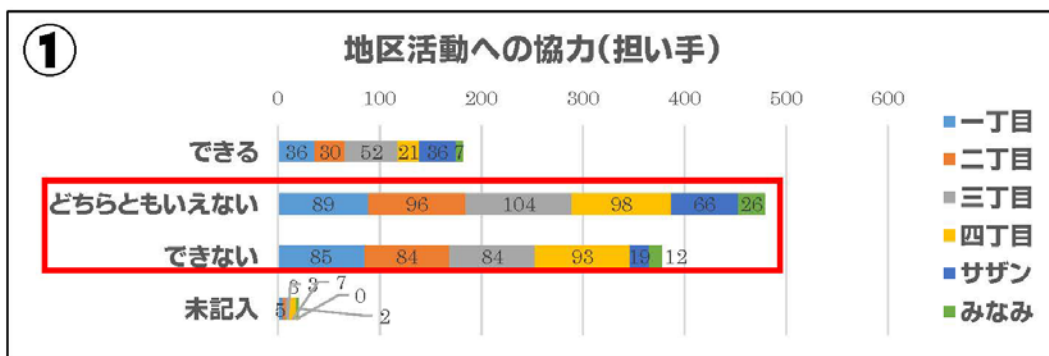
竹山地区



「住民アンケート」を実施しました！

竹山地区にお住まいの皆さんが、“地域活動に対してどのようなことを感じていらっしゃるのか”を把握するために、全戸を対象に住民アンケートを実施しました。約34%の皆様から回答があり、結果からは、次のようなことが分かりました。一部抜粋してご紹介します。

<問> 地区の活動について困っている事や要望はありますか。



①の結果からは、活動の負担感や高齢化等の理由により、担い手の減少が伺えます。

②の結果からは、活動やサービスについての情報が、広く伝わっていないことが考えられます。

今後、こちらのアンケート結果を踏まえて、**第4期竹山地区別計画の策定**を進めていきます！

竹山地区別計画推進策定委員会



竹山地区別計画推進策定委員会
令和元年10月発行 第3期-No.7（通算 No.17）
＜連絡先＞事務局 緑区保険年金課内 TEL：930-2336



第3期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」 竹山地区別計画推進策定委員会

第1回委員会を開催し、

地域活動の課題を共有しました！



第3期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」の竹山地区別計画は今年度で4年目を迎えています。昨年度の委員会では取組の振り返りを行いました。今回の委員会では第4期の計画策定に向けて、グループワークで竹山地区の課題について話し合いました。

第3期竹山地区別計画（H28～R2）の目標と取組

- 目標1「ボランティアの取組を充実します」
 - ・竹山ボランティアセンターの活動充実・PR強化
 - ・ボランティアの参加者を増やす工夫、仕組みづくり 等
- 目標2「知りたい情報をわかりやすく伝えていきます」
 - ・ホームページや広報紙での活動紹介、竹山の魅力PR強化
 - ・「防災ささえ愛カード」の取組を通じた、平時・緊急時の見守り体制検討 等
- 目標3「世代間・活動団体間の交流を進めます」
 - ・美化活動、竹山池などの魅力を活かした、多世代で参加できるイベント開催
 - ・課外授業などを通じた小学校との連携強化
 - ・ふれあいさろん竹多久を活かした交流や健康づくりの場の充実 等

今年度から第4期地区別計画の策定に向けた議論を行っていきます！



緑区キャラクター「ミドリリン」

第4期
地区別計画
(R3～R7)

地域活動を行う中での課題について～意見の一部を紹介します。

- ・ボランティアの高齢化が進んでおり、活動に限界がある。次世代の参加をどう実現するかが課題である。【活動の担い手不足】
- ・人と人とのつながりが少なくなりつつある。行事やイベントを活用して、住民同士の交流を広げられると地域の活性化につながるのではないか。【つながりの希薄化】
- ・高齢者が増えていく中で、安心できる見守り活動を続けるために、民生委員も苦慮している。つながりの中で必要な情報が届く仕組みがあるとよい。【情報の共有化】
- ・住民アンケートを実施するなら、回答者が簡易に回答できるような工夫が必要である。【ニーズ把握の必要性】



▲ Aグループ発表：
福地委員（民生委員・児童委員）

- ・高齢化するボランティアや自治会役員の世代交代ができず困っている。転入世帯に対して自治会加入促進することから、自治会活動に工夫を加えられるのでは。【活動の担い手不足】
- ・支援が必要な人の情報がわからず、各団体の活動を進めていく上で、どのように手を差し伸べていいのか悩んでいる。もう少し各団体間の連携・情報共有ができるとよいが、個人情報などの課題もある。【見守り活動の難しさ】【情報の共有化、団体間連携】
- ・小学校も保育園も地域に根ざした活動、支援を行っていきたい。また地域から様々なアイデアを教えていただくことで、子どもたちが自分のまちのことを身近に考える機会を広げていけたら。【子ども・子育て世代に対する支援体制】



▲ Bグループ発表：
篠崎委員（竹山保育園園長）

- ・共働き世帯は、地域よりも会社等にいる時間の方が長い現状があり、担い手の核として期待することは現実的に難しい。また、「自治会の役員を引き受けることができないので、自治会を辞めたい」とおっしゃる方もいる。【活動の担い手不足】
- ・何か取組を行うにしても、自治会だけでなく、活動団体同士で協同することで、負担を軽減できる方策があるのではないか。【団体間連携】
- ・住民が今何に困っているのかを把握するアンケートをやるのはどうか。以前に自治会で防災に関するアンケートを実施したら、約80%の回収率であった。【ニーズ把握の必要性】
- ・団地の階段は、上下の繋がりはあっても横の繋がりが少ない。何かしら情報交換の場があると良い。【つながりの希薄化】



▲ Cグループ発表：
青木委員（自治会会長）

委員会のまとめ



▲ 大谷委員長
（竹山地区連合自治会会長）

- ・昨年度実施した「防災ささえ愛カード」の回収率は約80%と非常に高く、住民の地域への関心や課題意識の高さを実感した。
- ・次世代にも活動をつなげていくためには、若い世代がどのような形であれば活動に協力してもらえるのかを理解する必要がある。
- ・グループワークでも意見が出ていたが、竹山地区として住民アンケートを実施してはどうか。竹山地区に住んでいる方たちが今感じていることや率直な気持ちを把握したい。実施に向けて、部会等の組織を立ち上げて進めていきたい。

続いています。誰でもぶらりと立ち寄れる、「カフェぶらり」。

認知症になっても安心して暮らし続けられるまちづくり

竹山地区社会福祉協議会が中心になって、認知症の方をはじめ地域の方ならどなたでも集まって、コーヒーやお茶を飲みながら、情報交換等ができる場として「ふれあいさん竹多久」（A コーポ2階）で、1～2か月に1度程度、日曜日に開催中です。詳しくは、階段の掲示板や竹山地区社会福祉協議会HP等でご案内しています。



「みどりのわ・ささえ愛プラン」は、誰もが身近な地域で安心して暮らし続けられる緑区を目指していくために、区民、事業所、地域ケアプラザ、社会福祉協議会、区役所などが協働で取り組む計画です。緑区では11地区ごとに「地区別計画」を策定・推進し、身近な地域の課題解決に向けて取り組んでいます。詳しくはHPや右記PR動画等からご覧ください。



<みどりのわ・ささえ愛プラン・竹山地区別計画推進策定委員会構成団体等>

連合自治会、単位自治会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、青少年指導員、小学校、保育園、こども会 等 計27名



竹山地区別計画推進策定委員会
令和2年3月発行 第3期-No.8（通算No.18）
〈連絡先〉事務局 緑区保険年金課内 TEL：930-2336

第3期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」

竹山地区別計画推進策定委員会

住民アンケート結果も踏まえて、
重点的に取り組む必要があることを議論しました！

第3期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」の竹山地区別計画は今年度で4年目を迎えています。今回の委員会では第4期の計画策定に向けて、グループワークで竹山地区で重点的に取り組むことについて話し合いました。



次の5年間、重点的に取り組むべきことは？～意見の一部を紹介します。

【活動の負担軽減に必要なことは？】

- ・イベント数が多く行事をまとめてやるということも考えられる。ただし、単に減らせればよいわけではない。
- ・イベントを小規模化、またはコミュニティを縮小して、各コミュニティで実施していくことも良いのではないか。
- ・行事ごとの役員（担当）を決めたらどうか。



▲ Aグループ発表：平田委員
(竹山地区社会福祉協議会事務局)

【世代間の交流促進に必要なことは？】

- ・地区内に交流の場や機会（竹多久、池活クラブ、子ども会等）があるので、子どもも大人も参加・交流できるイベントを企画する。
- ・竹多久では、テーマ型イベントを企画し、興味のありそうな人を呼び込み、それがきっかけとなり、別の機会にも訪れてもらうことを目指す。
- ・世代を超えたあいさつ運動を継続的に行っていく必要がある。



▲ Bグループ発表：山田委員
(竹山二丁目民生委員・児童委員)

【情報をうまく伝えるために必要なことは？】

- ・地域の活動は盛んであるが、必要な人に情報が的確に伝わっていない。伝える側の工夫が大事。
- ・階段掲示している地域活動の情報を分かりやすくするために、見る側の視点に立った掲示物作成がポイント。チラシの作り方研修を開催する、チラシ作り等が得意な人材を探す、など必要。
- ・防災訓練などの活動はもちろん、他の活動も管理組合と連携して企画することで、効果的な情報発信ができるのではないか。



▲ Cグループ発表：高橋委員
(連合自治会事務局次長)

委員長のまとめ



▲ 大谷委員長
(竹山地区連合自治会会長)

- ・連合自治会の行事については、すでに多くの皆さんで役割分担をしているが、新しく関わる方にとっては大変に感じるところもある様子。そういう意味で、経験のある人の活躍はやはり必要であると感じている。
- ・では、「世代間交流をどのようにしたらよいか」というテーマは難しい部分もあるが、今後も検討を重ねていかねばならない。
- ・広報紙に自治会の動きを分かりやすく載せた方がよいというような共通の意見があると思われるので、それに応えられるようにしたい。

ご協力ありがとうございました！

住民アンケートの結果の一部を紹介します。

【調査概要】 調査期間：令和元年11～12月
調査対象：竹山地区内全戸（3111世帯）配布 回収数等：1057票（回収率34.0%）

(1) 竹山地区の住民の概況

世帯人数は「1～2人」の世帯が全体の約7割を占めています。
高齢人口の多い竹山地区では、世帯全体も高齢化していることが考えられます。家族のいない・少ない中で、家庭内だけでは問題解決できない可能性も考えられます。

⇒家庭内だけでなく、地域の住民同士の支え合い・見守りの必要性が高いことが伺えます。

(2) 地区活動について

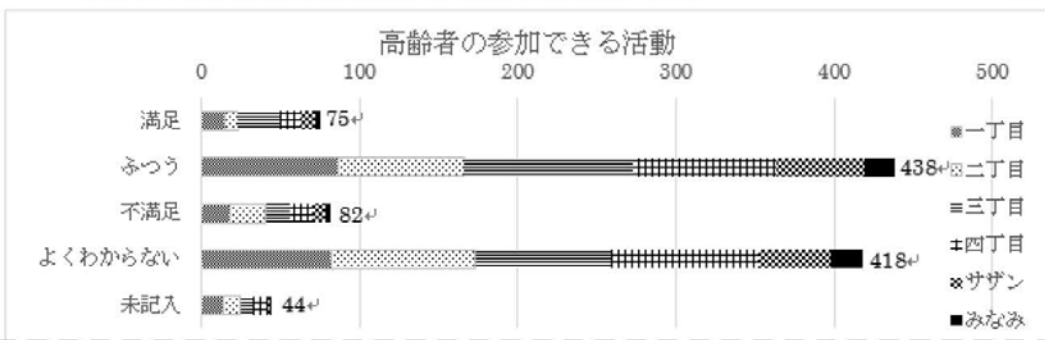
防災・防犯対策等自治会活動は住民の関心も高く認知されていますが、それに比べると高齢者や子ども、障害者に向けた福祉保健活動については、地区内で実施されているにも関わらず、あまり知られていないことがわかりました。

⇒活動やサービスに関する情報が住民の皆さんに十分に伝わっていないことが考えられます。

問 地区の活動について困っている事や要望はありますか。

⑤ 高齢者の参加できる活動

「ふつう」と感じる人が多く、次いで「よくわからない」人が多い。



その他のアンケート結果の内容については、自治会館でも閲覧できます。ぜひご覧ください！



<くみどりのわ・ささえ愛プラン-竹山地区別計画推進策定委員会構成団体等> (順不同)
連合自治会、単位自治会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、青少年指導員、竹山小学校、竹山小学校PTA、竹山保育園、こども会 等 計26名